

13 地球環境を守ろう！

目標



今地球上で起こっている気候変動や環境問題。どのような課題と結び付いているでしょう？

住民の移動を余儀なくさせる災害の年間発生件数(1970～2013)



頻発する干ばつ、砂漠化、スーパー台風、豪雨など、増加している災害は、やむなく移動を強いられる人、食糧危機にさらされる人が増える原因にもなっています。

グラフ: Unless we act now: The impact of climate change on children, UNICEF, The Internal Displacement Monitoring Centre (IDMC), Disaster-related displacement risk: measuring the risk and addressing its drivers, 2015

人口増加、製造業、水力発電、生活用水への水需要の増加、気候変動による利用可能な水資源量の変化などにより**深刻な水不足**が起きています。水資源の取り合いが**紛争**に結び付く危険もあります。

特に途上国の都市部で深刻な**大気汚染**が発生しています。

原子力発電には温室効果ガスを排出しない利点がある一方で、**放射性廃棄物の処分**という課題があります。

大気中の**温室効果ガス**が増え続けています。温暖化による海面上昇が島嶼国や沿岸部に大きな影響を与えています。また、感染症を媒介する生物の生息域が広がり、例えば、**マラリア、デング熱、ジカ熱**など、蚊が媒介する病気の感染地域が広がることも懸念されています。

ブランテーションや土地の開発のために、**熱帯雨林や森林が伐採**され、動植物が**絶滅**したり、生物多様性が失われたりしています。

日本のBOSAI(防災)を世界で役立てる 災害に備え、復興する力を

自然災害の被害を減らすための備えと、被害から少しでも早く復興する力が世界で注目されています。

災害が多く、長年防災に取り組んでいる日本には、様々な技術や仕組み、経験があります。これらを世界の自然災害被害の減少に役立てていくために防災に関する国際協力が活発に行われています。これまで3回の国連防災世界会議が横浜・神戸・仙台で開催されるなど、世界の防災力強化のために日本は多くの貢献をしています。

福島県相馬市では、2011年の震災の経験を子どもたちが「生きる力」を学ぶ機会として活用しようと「ふるさと相馬子ども復興会議」を開きました。子どもたちがふるさとの今と未来を考えて学習、将来の災害の可能性を知り、ふるさとの備えの有効性を検証しています。仙台で開催された国連防災世界会議のパブリックフォーラムでは、相馬市立飯豊小学校の6年生がその取り組みを発表しました。



「海洋」の恵みは 何とつながっている？

地表の7割を占める海。津波や台風など大きな災害をもたらすこともありますが、日々の食事に欠かせない海産物を供給するだけでなく、豊かな生態系や海水温が気候の安定に大きな役割を果たしていることも分かっています。

近年、大量のごみや汚染物質の海への流出、資源の乱獲、海洋酸性化、サンゴ礁やマングローブ林の減少、海水温の上昇など、海洋は危機的な問題に直面しています。人類共通の財産である海洋の豊かさを守り利用することは、SDGsの17の目標のどれとつながっているか考えてみましょう。

このマークはどんな意味？

買い物の時など、こんなマークのついた商品を見たことがありますか？ それぞれどのような商品であることを示しているか調べてみましょう。



パーム油をめぐる話

アブラヤシから採れるパーム油。菓子など様々な加工食品や洗剤に使われています。原材料に「植物油脂」と表示され気づきにくいのですが、私たちはこの便利な油を日々摂取しています。同時にパーム油の生産のために広大な熱帯雨林が伐採されていることもあまり知られていません。アブラヤシの栽培に適した赤道下のマレーシアやインドネシアの熱帯雨林には、ゾウやオランウータンをはじめ多種多様な動植物が生きています。熱帯雨林は、パーム油生産のため広大なアブラヤシのブランテーションに変わり、動植物は生きる場を奪われ、多様性は失われています。問題の解決に向けて、パーム油の生産者に加え、油を売り、買う企業やNGOなどが一緒になって、持続可能な形でパーム油を使うようにするための取り組みが2000年代に入って活発になっています。

私たちはどのようなものを食べ、使っているのか、調べてみましょう。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

ミッション!

「持続可能な世界にしていけるために、これから何をするのかを考えよう。」

ミッション達成めざして **STAGE 1** ~ **STAGE 4** のステージに取り組もう。

STAGE 1 SDGsの目標は以下の17項目。これまでに学習したことを思い出しなが、優先的に取り組んでいきたいと思う目標を、1~3まで順位をつけてみよう。また、その理由も書いてみよう。

目 標	順位	理 由
1 貧困をなくそう 		
2 飢餓をゼロに 		
3 すべての人に健康と福祉を 		
4 質の高い教育をみんなに 		
5 ジェンダー平等を實現しよう 		
6 安全な水とトイレを世界中に 		
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 		
8 働きがいも経済成長も 		
9 産業と技術革新の基盤をつくろう 		
10 人や国々の公平性を追求しよう 		
11 住み続けられるまちづくりを 		
12 つくる責任 つかう責任 		
13 気候変動に具体的な対策を 		
14 海の豊かさを守ろう 		
15 陸の豊かさも守ろう 		
16 平和と公正をすべての人に 		
17 パートナリシップで目標を達成しよう 		

※ここに掲載されている17の目標は、外務省の仮訳を参考に、教材のためにわかりやすく意訳したものです。

STAGE 2 班やクラスの仲間とそれぞれが選んだ目標や、その目標を選んだ理由を話し合ってみよう。

STAGE 3

これからの社会を、持続可能でよりよいものとするためにはどうしたらよいだろう。
話し合った内容をもとに、これから解決策を考えたいと思った目標や課題を書き出してみよう。

取り組んでいきたい目標や課題

取り組んでいきたい目標や課題についてレポートを作成してみよう!

設定した課題や目標について、さらに詳しく調べて、自分の考えをレポートにまとめてみよう。
レポートの最後には、課題の解決や目標の達成に向けた「行動宣言」を書いてみよう。課題を考えるときは「自分で解決できること／他の人や社会全体と協力して解決できること」「地域の課題／世界の課題」、解決策を考えるときは「今できること／将来取り組みたいこと」など、様々な視点から考えてみよう。まとめた後に、発表や、意見交換をすることでさらに考えを深めていこう。



「人のためになるようなテクノロジーの仕事に就きたい!」

エリフ・ビルギンさん(16歳 トルコ)

2年間かけて、本来なら廃棄されるだけのバナナの皮から環境にやさしいバイオ・プラスチックを開発しました。



「規格外の野菜で作った国産飼料で、純国産の豚肉を生産!」

北海道美幌高等学校 生産環境科学科

町の特産品の野菜(じゃがいも、カボチャ、にんじん)の中で、規格外として廃棄される野菜で豚の飼料を開発。国産飼料で育てられたブランド豚の生産、商品開発に取り組みました。また、豚のふんを堆肥にし、特産品の栽培に活用。循環型養豚経営を構築しました。



「目が不自由な人がかけている眼鏡をもっと役立つものにしたい!」

アナンさん(中学生 イン)

目の不自由な人が周囲の状況が分かるよう、超音波を使って周囲を感知できる機能の付いた眼鏡を発明しました。廃棄された携帯電話の部品などを使って作られたこの眼鏡、大学の先生とも協力して更に改良が進められています。



「子どもたちにとってよりよい世界をつくりたい!」

イングリッドさん(14歳 ブラジル)

ブラジルに来る難民の子どもたちにおもちゃや本を寄付する活動を通して、難民の子どもたちの生きる権利や遊ぶ権利を守ろうとしています。イングリッドさんはSNSを使ってこうした活動を伝え、社会を変えたい仲間とつながっています。



「島の美しい自然を守るためにレジ袋をやめよう!」

ムラティ(10歳)・イザベル(12歳)姉妹(インドネシア)

2018年までにバリでのレジ袋使用を廃止するよう市長に約束してもらうために、請願書の作成、ビーチの清掃活動などを実施、彼女たちの願いが受け入れられました。



世界には、世界を変えようと一歩を踏み出した仲間たちがたくさんいるよ。どんなことをしているのか見てみよう!



STAGE 4

4 行動宣言: 2030年にむかって、君たちがしていきたいこと。

行動宣言

この行動宣言はSDGsのどの目標につながっているだろう。下の目標のアイコンに○をつけてみよう。



発展

それぞれの行動宣言を発表しあおう!そして、さらに深く話し合ってみよう!

「持続可能な開発目標(SDGs)に関する副教材作成のための協力者会議」

及川 幸彦 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進センター主幹研究員

大谷 美紀子 弁護士 国連子どもの権利委員会委員

久木田 純 関西学院大学SGU招請客員教授(元UNICEFカザフスタン事務所代表)

竹原 真 全国中学校社会科教育研究会会長 江東区立深川第四中学校長

田中 治彦 上智大学総合人間科学部教育学科教授

内藤 徹 前国際協力機構(JICA)広範地域課長

早水 研 日本ユニセフ協会専務理事

樋口 雅夫 前文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

甲木 浩太郎 前外務省国際協力局地球規模課題部課長

「持続可能な開発目標(SDGs)に関する副教材作成のための作業部会」(座長 竹原 真)

金城 和秀 東京学芸大学附属世田谷中学校(部中社研 公民専門委員)

中野 英水 板橋区立赤塚第二中学校(部中社研 地理専門委員)

藤田 琢治 鎌倉区立大森学園中学校(部中社研 公民専門委員)

※敬称略、五十音順。

事務局:公益財団法人日本ユニセフ協会 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス ☎03-5789-2014

5

発行:2018年9月 改訂版発行:2019年9月

©日本ユニセフ協会



リソナグループ
本副教材は、リソナグループからの支援により印刷配布されています

